



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

聖書は、人の命とその生涯は神から授かったものだを教えています。そこには固有の人格と能力が与えられ、私たちはこれをいかに大切に用いていかなければならないかという課題を負っているのです。当然、それは神への応答としての、私たち一人ひとりの責任にほかなりません。ところで、責任を果たす人生というとき、聖書の「タラントンの例え話」(マタイ二五の一四〜三〇)を思い出してください。主人が三人のしもべに、それぞれ五タラントン、二タラントン、一タラントンのお金を預けて旅立ちました。長期間を経て帰ってきたとき、前の二人はそれぞれ財産を二倍に増やしていて、主人に差し出しました。三人目のしもべは、前者二人に比べて最少額だったのでひがみ、預かった一タラントンをそのまま中に埋めて、活用することを怠ってしまっただけです。これを知った主人は、三人目のしもべをきびしく叱りつけました。

ここで言う通貨の単位タラントンとは、また「賜物」を意味する言葉

愛の賜物を生かそう

牧師 陣内厚生

です。単に才能とか個性だけを指すのであれば解りやすいのですが、この賜物は、人に与えられた命をいかに大切にすることができるといいう能力を暗示しています。すなわち、私たちが生きる中で、神と他者への関わり、愛という概念までも視野に入れた能力と言っても過言ではありません。

た。自分を愛し大切にするのは、隣人の苦しみを背負う責任があるからであり、それが隣人に発揮されることになり、愛の大きな果実がもたらされることになり、愛の概念という視点からタラントンの例え話に宛がってみると、この賜物は私たちの人間関係にとって実に有用なものとなるのがわかります。現代社会は人と人とが相互の信頼を失い、人間不信の様相を呈しています。また本来あり得ない不平等が、



固定化されたかのように人びとを孤立に追い込んでいます。どこを見渡しても愛の枯渇した姿に事欠きません。そのような中で、タラントンを託されている人びとがいるのです。それはいま生かされている私たち一人ひとりで、殺伐たる世に愛のタラントンを発揮することによって、多くの人びとにさらに豊かな信頼関係や心の充足感、ひいては希望や喜びが満ち溢れるに違いありません。さて、ここまで筆を進めてきて、どうしても気になることがあつた。あの三人目のしもべは主人から「悪いしもべだ」、「外の暗闇に追い出せ」とまで言われました。全き「駄目出し」が響き

ます。しかし私はこの話から類推するに、神は、むしろ特性も薄く乏しい者にこそ、温かい愛のまなざしを向けておられるということです。神の目からは気掛かりでならず、そのような視線を、主イエスの言葉と行動に見る思いがします。すなわち、三人目のしもべこそ、神が用いてくださる器であることを自覚し、責任ある生き方に切り換えるならば、必ずや祝福を受ける人物になると私は確信するのです。